



# 民俗文化財

長野県内には400余の民俗文化財があります。



民俗文化財とは衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋など人々が日常生活の中で生み出し、継承してきたもので、人々の生活の推移を示します。

民俗文化財は、有形民俗文化財と無形民俗文化財の二つに分けられ、生活道具、衣装などが有形民俗文化財で、伝統行事、伝統芸能等が無形民俗文化財となり、国や地方公共団体が指定・選択・登録しています。



## 農村歌舞伎

長野県の無形民俗文化財の特徴の一つに、農村歌舞伎(地芝居)があります。映画で知った方も多いと思いますが、下伊那郡大鹿村の大鹿歌舞伎をはじめとして、県内各地に農村歌舞伎が根付いて伝承されています。その多くが江戸時代から行われています。



## 中尾歌舞伎

(市指定無形民俗文化財:伊那市)

起源は江戸時代の明和4年(1767年)頃、この地に旅芸人が来て、上中尾

の山の神様を祀ってあった神社の前宮で演じたのが始まりとされています。天保時代から大正時代まで盛んに演じられました。戦時中は中断しましたが、地域の若者が、戦前に歌舞伎を演じた経験を持つ古老の指導を仰ぎ、復活上演を行いました。以後、毎年4月と11月に定期公演を行っています。



## 大鹿歌舞伎

(国選択無形民俗文化財:大鹿村)

大鹿歌舞伎の一番の魅力は、基本的な動作を変えずに忠実に約300年伝承されていることです。また、海外公演の実績があるなど、全国の地芝居のリーダー的な存在でもあります。毎年5月3日と10月第3日曜日に公演が行われます。

## 祈津東町歌舞伎

(市指定無形民俗文化財:東御市)

江戸時代の寛延4年(1751年)頃から演じられていたといわれ、戦時中は中断したものの、現在まで地元の人々によって継承されています。「舞台仕込帳」などによって多くの演目が公演されています。毎年4月29日に公演を行っています。



## 伝|統|行|事|

### 小菅の柱松行事

(国重要無形民俗文化財:飯山市)

飯山市瑞穂の小菅地区で3年に1度行われる小菅

神社の例大祭です。柱松行事は、上(かみ)・下(しも)に分かれた若衆と松神子が柱松頂部の尾花への点火の早さを競い、天下太平、五穀豊穡を祈願するものです。開催年の7月15日に近い日曜日に行われます。



### 和合の念仏踊

(国重要無形民俗文化財:阿南町)

阿南町和合地区で、約270年前から伝わりとされる念仏踊です。毎年8月13~16日に行われます。地区内の熊野神社、庄屋の宮下家、林松寺と移動し、笛や太鼓、カネの音に合わせて踊ります。



## トピックス

長野県内には国指定・選択・登録の民俗文化財が45件、県指定・選択民俗文化財は59件あります。

## 無形文化財

演劇、音楽、工芸技術等で歴史上または芸術上価値の高いものを「無形文化財」といいます。無形文化財は、人間の「わざ」そのものであり、具体的にはそのわざを体得した個人または個人の集団によって体現されるものです。県指定には、日本刀制作技術があります。

### 芦ノ尻の道祖神祭り

(県指定無形民俗文化財:長野市)

長野市大岡芦ノ尻地区で毎年1月7日に行われる

行事です。一年の無病息災を祈願し各家から持ち寄られた注連縄でムラ境の石造道祖神碑に神面を装飾します。石塔を芯として造形される神面のみの装飾は他に例をみないものです。長野オリンピックの開会式に登場したこの道祖神は、世界中の人々から賞賛されました。



## 有|形|民|俗|文|化|財|

### 木曾塗の製作用具及び製品

(国重要有形民俗文化財:塩尻市)

江戸時代の中期に、中山道を往来する旅人を相手に、豊富に産出するヒノキなどを材料として、曲物や櫛といった日常雑器を作り始めたのが始まりです。これらが旅人により京都や江戸へ運ばれました。木地のもつ木目の美しさを生かすため、下地を付けずに生漆を何度も塗り込んでしみ込ませる手法等が、木曾塗の特徴です。

